

## 歴史・楽学講座 講義録（資料の補足）

文責：中島 浩史

### 1. 講座について

- (1)開催日：2023年5月25日(木) 10:00~12:00
- (2)講師：三浦 明彦氏
- (3)会場：熊西市民センター
- (4)受講者：30名



### 2. 講義概要

#### (0)徳川家康について

##### ①「凡事徹底の人」

- ・戦国3大英雄(信長・秀吉・家康)の中でカリスマ性はない→普通の人  
(大河ドラマで主人公2回)
- ・戦国3大英雄の中で一番長生き(75才で没)→70才からの5年間で男子3人を儲けた
- ・江戸幕府(265年間：慶長8(1603)年10/18~慶応4(1868)年10/14)の開祖  
→**当たり前のことを当たり前に行ってきた**

#### (1)幼少の段階で父母との別れ

- ・3歳で母・於大(伝通院)と離別、6歳で織田家へ人質となる  
於大は水野家出身
- ・家康の先祖は諸国を旅する僧侶(願人坊主：がんじんぼうず)で、見聞情報を伝えたり、お札やお守り販売、祈祷等を行いながら行脚、生計を立てていた。  
三河の松平郷を当時支配していた酒井一族に請われ逗留するうちに婚姻。  
家康の祖父(松平清康)の時に三河一帯を治めた。清康は家臣の妻との情事で夫に殺される  
清康の死後、家康の父・松平広忠のときに勢力が弱まった。(今川vs織田)

#### (2)人質生活

- ・父：松平広忠と水野信元は当時、今川側の配下となるが、水野信元が織田側へ
- ・家康は当初、今川方の人質となる場所であったが織田方が連れ去った  
→6~17歳まで織田家の人質となる →信長との接点  
→家康17歳の時に織田信広(信長の兄)との人質交換により今川方へ(20歳まで)

#### (3)四つの名乗り

- ・江戸初期には300大名を数え、徳川家と松平家が混在していた  
家系の苗字  
領地：上野(コズケ)現在の群馬県：得川村→得川(徳川) →将軍家(御三家)  
その後の領地：三河：松平郷(村)→松平 →支族(十八松平)  
※参勤交代で外様大名が江戸にいる際には「松平」姓を名乗らせた  
→敵対心を持たせず、身内感を抱かせる

- ※三河は元々、吉良家の所領→清康の時に追われた由により家康が吉良家を重用
  - ・一字拝領（偏キ）：名づけする際に名前の一文字を授ける
    - ※偏キの順番は、拝領する人の上下関係を表す
    - 元康では、元→今川義元から拝領 康→家康が尊敬する祖父(松平清康)から上位者から授かる一文字は必ず頭につける
    - 上位者の名前前の文字順により、授かる一文字は上下関係を表す
  - ・受領(ズリヨウ)：将軍が天皇に金品を贈る代わりに「位」を授かり、その位を部下等に与える
- 徳川三河守家康

#### (4)織田信長との関係

- ・今川家・足利家の格式では、吉良家に次いで3番目に高い家柄
- ・偏キ・家康の長男（信康）の命名は信長 →光栄ではあるが、信長と家康の関係を示唆

#### (5)最大の宿敵・武田信玄

- ・「武田の赤備え」を導入 →「井伊の赤備え」

#### (6)豊臣秀吉との関係

- ・豊秋津島の臣 → 豊臣
  - 日本を表す
- ・家康への受領（大納言→内大臣）

#### (7)正室二人は政略結婚

- ・最初の正室：瀬名（築山殿）は今川義元の姪 →信長の命で処罰

#### (8)深く愛した三人の側室（お愛・茶阿・お亀）

- ・3人共に未亡人で、先夫との間に子供があった
- ・お夏・最後の側室（家康75歳の時に15歳で側室へ）
- ・春日局・名前ではなく、将軍の乳母の称号

#### (9)健康マニア

- ・生涯、医者に診てもらっていない →多分、胃がんで死亡

#### (12)総合的人物評価

- ・「時を待った人」・鳴かぬなら、鳴くまで待とう、ほととぎす
- ・手紙を多く書いた →気遣いの人

以上